

大神楽根帳（作成年代不明）

井上隆明校訂

大神楽根帳

大祓

神降

青駒ニ白くらお、きてやあー。たずなかけ

やあー。朝日に向ケ而哉ー。神向へセン哉ー。神ナ

メニ出雲ニ参レヤアー。さ、お舟ヤアー。神祭り

センヤアー。朝日ニ向ケ而ヤアー。

米卷

折居

御講屋ヲさし入り拝めば神降りヤア榊葉サカキハ

ヤたちもろ袖ソデノ覆オオイひ風にやアー

東方

ゆうだすきかけて岩戸の開クレバ神

世ノまゝに春ハきにけり

南方

神祭り榊サカキニなびくゆうしでの糸モ

すゞしきもりの下風

西方

日の神の斎庭エニワの稲モ穂にいでて千年チトセの秋も我君ノため

北方

夕ユフしでの風ニ乱る、音さえて色白たえに

雪ぞ積れる

仰ソモモ天神地祇ギの知シめす天オガクの御樂は雲に

寄コガネ七黄金ノ砂マサゴを御座として昼夜モ（雜談）

えバ白ゆう花モ雨と降る是も富岳ノ音ヤラン

心さよかに清すみ渡るなり

東方

甲乙チウエキトノ方ヲナリ木徳神ツカサドノ司リ

ちくさも繁ル春ノ日に光りのぞかにす

み渡るなり

南方

丙丁チウモウトノ方ヲナリ火徳神ノ司りちく

さ毛繁ル青ヤカニ民ノかまどもにぎ
わえる

西方

庚辛ノ方ヲナリ金徳神ノ司リ里田

モ色ニ稻席吾しき鳥ノ国穩かに

北方

壬癸ノ方ヲナリ水徳神ノ司リ四方ノ

梢モ冬籠リ時ヲ正すも神心

中央ハ戊己ノ方ヲナリ土徳神ノ司リ風

雨順時天地ノ惠違はず万世に神の久シク

守るなり

手草の舞

手草場の折居ノ御座に綾をそへ錦をそ

へてとくと踏せん

抑手草ノ其本ハ天ノ岩戸の其前へ神

王の神の神籬を斎ひ奉るぞ初なり其をた

めしに皇孫の天降たる其時も斎奉りし

神籬ぞ神の御たまの御ましにて甚も尊

き神事なり

抑も此御社に差シ入り拝し奉る陰ニそむき

陽ニ向ひ国民富み榮へ万物備はる御惠

み當社の景地に備りて後ハ神木高く

聳え来る凶事を払らい山と村との間ニハ

鎮りまします何クノ大神其廣前□

御講をかざり蓋やじめに玉をたれ宝祚ノ

延長万民安らかなるが為め御神樂奏

デまつりツ、御心なごめ奉る是を御国

の御為めなり

二本剣波兒安姫尊

我ハ是中央の有主波兒安姫の尊也

四本剣 東方

是の敷地ニ悪事災難若シありや木火金水四

神相応の地なり吾敷地を鎮め神トハ東方く

この地の尊なり

南方

是の敷地ニ悪事災難若シありや木火金水

四神相応の地なり吾敷地を鎮の神トハ南方

カケ土の尊なり

西方 金山彦の尊

是の敷地ニ悪事災難若シありや木火金水四

神相応の地なり我敷地を鎮の神トハ西方金

山彦尊なり

比方 水の神

是の敷地ニ悪事災難若シありや木火金水

四神相応の地なり我敷地を鎮の神トハ比

方水波の目の尊なり

東方

いつもうごかぬ山のうごぐはいかよふなし
さいにて候や

中央 土の神

いつもうごかぬ山のうごくハどふりなり
それ天ヨリいちもつあらわれ出テすめるハ
のぼりて天となりにごるハ下りて土となり
我中央の有主なり

東方

さほどちゑかしこき事をのたまわバ
父母の時ヨリ生レ参り同ジわけ証文シヨモシもあらじ
東方のせいをそろゑ木を以テ応地をう
たん

中央

その時それかじ時ならぬ風ををこし
木をさんくとふきおり木にはうたれず
南方クグノ地の尊
南方のせいをそろゑ火を以テ応地を焼ユん

中央

その時それがし時ならぬあめをおこじ火を
しんくとけし火にハ焼れず
西方金山彦の尊
西方のせいをそろゑ剣ツルギヲ以テ応地キヲたらん

大神楽根帳(作成年代不明)(井上)

中央

その時それがしだいはんじやくの岩となり
剣をけんくとくだき剣にハきられぬ
比方水波の目の尊(マヤ)

比方のせいをそろゑ水を以テ応地を八海二
ながさん

中央

その時それがし棉住わたすみの神となり水の
上をあなたこなたと浮渡りよきたの
しみをせん

風神

歌しましし木この葉の下タゆくす、ら水
なりをしづめて事を葉をきけ 歌能
古代イニシエいざなきいざなみノ神我うめ (雅説)
国ハさぎりのみかをりみてる加茂とのり
たまいて吹はらうみいき神となるしな
かつ彦の神と申ハみつかからが事なりしか
る二五行の神の御た、かいそれがししよ
むわけ仕ん先々御鎮り候ゑ
古代あめ土なかりし時高天の原ヨリ
あらハれ給ふ御神のみなを天メの御中主
の神と申ス此御神の美玉いんよふ二柱トなり
給い其なかより五行の神名あらハれたもふ

先青^{アヲ}き色の光り形チ三角にして東のかたに
飛行給ふをくゞのちの尊と申ス次ニ黄^キき色の
光り形チ四角にして南の方々に飛行給ふをかぐ
づちの尊ト申ス次ニ黒き色の光り形チ五角に
して西の方々に飛行給ふを金山彦の神ト申ス
次に白口き色の光り形チ丸くして比^ヒの形に飛行
給ふを水波の目の尊ト申ス次ニ黄^キき色の
光り形チ六角にして天地の間ニ飛行し
給ふを波児安姫ノ尊ト申ス此御神たちの
うち四柱の神たちハ春夏秋冬をつかさ
どり給いて土神ハしゞの所務^{シヨム}もましまさ
ねハ土神を、いにいかりをはつしさんかい
だいちをうごかして神いくさをなさ
せしめ給ふ其時風神なかにわつていり
是ヨリ五行の神^シめいあらハれ給ふ先青き色
の光り形チ拾^シ式日^{シキ}をりよふしたまゑのこる
十八日を三月の土用トなづけ中央土神の
所務ニ奉れみもと青き御神ニましませハ
青きみてぐらを奉るしんけんハさやに
おさめ東方の守りのしんと御鎮り候ゑ
南方火の神ニ向てもふさく夏三月九十日
の内は七十二日をりよふし給ゑのこる十八日を六月

の土用トなづけ中央土神の所務ニ奉れ
みもと赤き御神ニましませハ赤きみて
ぐらを奉るしんけんはさやニ納南方の
守の神ト御鎮り候ゑ西方金の神ニ向て
もふさぐ秋三月九十日内七十二日をりようし
たまいのこる十八日を九月の土用トなづけ
中央土神の所務ニ奉れみもと黒き御
神ニましませハ黒きみてぐらを奉るしん
けんはさやニ納め西方の守りのしんと御
鎮り候ゑ比^ヒ方水の神ニむかづてもふさく
冬三月九十日内七十二日をりよふしたまゑ
のこる十八日を十二月ノ土用となづけ中央土
神ノ所務ニ奉れみもと白き御神ニまし
ませハ白きみてぐらを奉るしんけんハ
さやニ納^北中央^右北方の守りのしんと御鎮り候ゑ
中央土の神ニ向てまふさく春夏秋冬ノ
内十八日宛を合て是も同く七十二日中央土神
の所務ニ奉るみもと黄^キき御神にましませハ黄^キ
みてぐらを奉るしんけんハさやニ納メ中
央の守りのしんと御鎮り候ゑ
波児安姫の尊
ちのきれく色々御苦勞かたじけなく

存候得共ちのきれくはしばしハなにの
よふにも立もふさず御計やめさせ候え
まるがちからでさき取もふさん

風神

ちのきれくはしぐの事なれハめつにち
もつにちとふこにちをふもふ日ごもふにち
是に二期のひがんをそゑて進上申候間是
にて御鎮り候え

波児安姫ノ尊

あねの姫官四人もては是二けつしけしよふでんを
たまわり候え

風神

女子ノ上までハ風神計イ難ク候

波児安姫の尊

女子ノ上迄計イ難クトハ何れの神ノ御事
ならんや

風神

しかれハ十方ぐれの明ク日より又暮日迄奉
らん是にて御鎮り候や

波児安姫尊

風神はいぜんよりいろく御苦勞辱存候
得共ノて土用の間日をおしゑ奉らん

風神
是は一段ダシカタジケナク辱候御さづけ候得

波児安姫尊

春くれハ。酉巳ノ山ニ午そふす

風神

春くれハ。酉巳ノ山ニ午そふす

波児安姫尊

夏のに辰ハ。卯申なりけり

風神

夏のに辰ハ。卯申なりけり

波児安姫ノ尊

秋モ酉。未のあゆみいかなれハ

風神

秋モ酉。未のあゆみいかなれハ

波児安姫ノ尊

冬寅卯巳や。はけしかるらん

風神

冬寅卯巳や。はけしかるらん

とてももの事に八せんの間日を御教え候

波児安姫ノ尊

犬クギリユバ牛ユバ龍馬と御つかゑ候え

風神

しからハ犬クハいぬ牛ハうし龍ハたつ馬

ハうま出るとの御事ならん是ハ一段辱
然ル上ハ四方をかけてまいしつめ跡アトより
祭り奉らん

折敷

やちくまわ空らをかけり地を走り
ばんに落てわ砂となり正風てんして
手ニ持ハ神のちかいもいと、たのしき

先駈ノ神主

神主

せいたかしせいしづかなりや宮之内直
しづかなりやみやの内雨土の清ク開
けし神の地ニまおふの者ノ住そあや
しき

先駈

雨土ノ清ク開ケシ神の地ニまお、なら
では。たれか住べし

神主

千早振なにわの事モ足原の国の初の

道は一筋

先駈

しらずしてふみまよいぬる神地

山今改ムル道ハ一筋

神主

きんじよさいはいさいはいツ、シミウやまつ
てごんじよし奉ルそれ年月初マ

リテヨリ此方四季ノ御祭ヲ致さんハと

ほつしちささいさんさいをなし四方

八宮ニしめなわを引はへ新殿ヲ設ケ

八足百鳥モトリノ机ヲかざり其上ニくさく

の品をあざへ今日国家平安にいのり

を致サントほつするを平ケリ。しろし

めせとまほす。然ル処是ヨリ丑寅ノ

間ニ当り悪風さつさつとふき、たり

此神殿ニチカヅク事ふけいなりなんじ

何者やらん速ニたいしつあれ

先駈

抑先駈ノ神ト申スルハ一第神明ノ分

神ナレバ神ト見エルモ同理カナ毛がりハ

三尺ニシテまなこの光ハかがみのごとし

はなは七わたそびろ七ひろ口かくれ

赤くて連時有テハきちく墨ボせきキにみ

をかり真マコトニほんたいを食セントほつす

るに、たり。かたには赤き天いを懸ケ

かんじよをひさげ天地ノ間をひこ

ふする処国こそお、けれ何々ノ国
郡当社宮ノウズまいにおヲたいこ
かくこふたつゞみかく物ノねをはつし
神主ハいりましをきよとしる也ぞ
綾アヤヲはへ錦ヲはへテとくとふませんな
ど、かほどのさいしくわだつるなら
三日先ニ吾ヲ荒申神とこそ祭へシキニ四方八方
ノ神鏡ヲゆるす間敷候

神主

抑天神七代ノ後地神三代すめみま
に、きのみこと未タ此土ニごふりんまし
まさゝるの時此国ヲ見賜ミタモテフニほたる火
ノ如クかゞやく神さわに起り山川なり
うごき草木こゑお発スレドモふしき
なるかや神明ノ力チカラヲ以テおさむれば
悪鬼たちまちに平ふくすそれ
我国ハ神国ナリ道ハ神道ナリ人ハ神
孫ナリ神ナケレバ天地ナシ天地ナケレハ四方
ナシ万一方ナシ又万方モナシナンジ此理
ヲ里ラスシテ此祭ていにきそいをな
すことふけいナリ速ニたいしつあれ
先驅

汝ト我ト最さんの問答ニ及へ共未タ一この

徳ヲ得ザルカ如シ汝ヨウボウハ美ナリトイヌドモ
其しんしよふをしへからす我ハ是天地処
満のめうたいなれば一神ニして六めう
有リ第一猿田彦尊第二とこたちの
尊第三鬼神第四木神第五をふ田
の尊第六をきたまの命皆是神

徳かふだいなるが故ニすべて先驅ノ神
ハ九万八千五百八拾式神有リ二行水行有リ
けんぞくよくちよあり同相神土空神
共申也千へん萬くのめうせつを以テ
善也物ニは幸をあたへ悪成物ニは
たちまち罪を以テ苦むる人民を善心ニ
道ひかんがため先驅の神と仕へ奉
らんかひなや

神主

只今のひつゝを拝分すれば先驅の
神にうたかひなし真世の御す、を
打ふり千代の御楽ヲ奏し賜エ

先驅

真ニ神主の教の如く御す、を打ふり御
楽を奏すれハきき申うも柔和ニユワの身体と
成る事うたかひなし然ル上ハ我降る処

のかんしよふを渡すべしじのふ
にをいても諸願成就の御樂を奏
し給へ

神主

是よりてほんとふの家を造り井を
堀かまとをぬるも屋かけ三尺のうち
たゝり無よふ舞ひしつめ候後より
祭り奉らん